



熱戦に
歓声

■ 5 回目の公式戦に熱気

プロ野球ファーム・リーグ公式戦 楽天 vs 日本ハム



プロ野球ファーム・リーグ公式戦「東北楽天ゴールデンイーグルスvs北海道日本ハムファイターズ」が7月11日(土)に楽天イーグルス奇跡の一本松球場で行われ、2,091人の観客が詰めかけました。
同球場での楽天の2軍戦は令和4年から行われており、今回で5回目の開催。試合は、入江大樹選手と吉野創士選手がホームランを打つなどの活躍を見せ、楽天が見事勝利しました。
試合終了後には、選手とのふれあいイベントも催され、来場者はキャッチボールなどで選手との交流を深めました。
気仙沼市から訪れた武村奏良(小学4年)さんは「ホームランがたくさん見られて楽しかった。楽天が勝ってうれしかった」と喜んでいました。



選手とのキャッチボールで交流する子ども



ホームランを放つ入江選手

夏を
彩る

■ 笑顔の輪、大きく広がる

チャオチャオ陸前高田道中おどり



本市の夏の風物詩「チャオチャオ陸前高田道中おどり」が、7月18日(土)、ちょうちんで彩られた本丸公園通りで開催され、多くの来場者で賑わいました。
踊りは2部構成で行われ、事前申し込み制の第1部には16団体約340人が参加。おそろいの法被やTシャツ、浴衣などに身を包んだ踊り手たちが息を合わせて踊り、会場は高揚感に包まれました。
参加した小島空大さん(高田小4年)は「みんなと声を出して踊れて楽しかった」、村上琥汰朗さん(高田小4年)は「最初は踊りが分からなかったけど、踊れるようになって楽しかった」と、それぞれ笑顔で話していました。



楽しく、息を合わせて踊りました



生き物
いっぱい

■ 小友浦干潟の自然と役割を学ぶ



陸前高田市水産教室を開催

6月30日(火)、小友小学校の5年生17人を対象に水産教室が開催されました。
本教室は、地域の海や漁業資源を活用した体験活動を通じて、次世代の水産業を担う青少年の育成を図ることを目的に市が開催。市立博物館の浅川崇典学芸員と岩手医科大学名誉教授の松政正俊さんを講師に、教室で干潟に関する講義を受けた後、学校近くの小友浦干潟へ移動して清掃活動と生物観察会を行いました。
清掃活動では、児童みんなで協力し、軽トラック1台分ほどの漂着ゴミを回収。その後の観察会では、児童らがカニや貝を見つけるたびに講師に報告し、生き物の生態や干潟を浄化する役割についての説明を受け、身近な場所に広がる豊かな自然への学びを深めました。
参加した高松翔さん(小友小5年)は「学校のすぐ近くにくさんの生き物があると知れて良かった。また干潟で生き物を観察したい」と笑顔で振り返っていました。



小友浦干潟で生き物を探す児童たち

祝優勝

■ 県を制し、インターハイ出場へ



高田高校女子ソフトテニス部が県高総体で優勝

県立高田高校の女子ソフトテニス部が、5月29日(金)から31日(日)に行われた第78回岩手県高校総合体育大会の団体戦で優勝しました。
また、同部は、7月31日(金)から8月3日(月)までの日程で開催された全国高等学校総合体育大会(インターハイ)に出場。インターハイを前に主将の遠藤優依さん(3年)は「自分たちより強い選手がたくさんいると思うが、自分たちのできることを全力でやり、1つでも多く勝ちたい」と意気込みを語っていました。
県高総体やインターハイの様子は高田高校の「note」をご覧ください。



市役所で県高総体の優勝を報告しました

高田高校の
note は
こちら



いざと
いう時
のために

■ 実践的な訓練で防災意識向上へ



小友地区土砂災害避難訓練を実施

本年の土砂災害避難等訓練が7月5日(日)に小友町で行われ、地域住民約200人が参加しました。
本訓練は、実践的な避難訓練を行うことにより、避難体制の強化と住民の防災意識の向上を図るため毎年実施しているもの。訓練に参加した住民は、避難者の受け付け、段ボールベッドの組み立てや備蓄食料の試食などを体験しました。訓練では、人工知能を活用した市独自の情報伝達システム「シン・オートコール」を使用した電話での避難受け付けを試験的に実施しました。
訓練後のアンケートでは「有意義な内容だった」「災害時の携帯トイレの使い方を知ることができて良かった」といった感想が寄せられ、大雨への備えの大切さを感じていました。



シン・オートコールを体験する参加者